

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
2年後期	2	2	選択
担当教員			
秋山 憲治			
添付ファイル			

講義概要	この科目の目的は、他者に向けた人間の行為、人間どうしの関係、および人間の集団を手がかりとして、社会現象を冷静かつ客観的にみる眼を育むことである。人間は、社会現象について自分の体験だけで判断したり、恣意的な評価を下したりしがちである。しかし社会現象についても、個人の主観と国境を越えて適用できる普遍的な概念や理論がある。そのような概念や理論を用いながら、現代日本社会の構造と変動を考察していく。それによって、私たちが自明視している「社会の仕組み」を再考することにつながるはずである。		
授業計画	1	社会学の基本的性質 ・総論として、社会科学、人間科学における社会学の位置づけ、I類（人間・文化科目）の意義および社会学の実践的意義について解説する。 ・「社会科学」の一部分としての「社会学」、「社会学」と他の社会諸科学、社会学の対象を取り上げる。 ・AL①を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：社会学と他の社会科学の対象の違いは具体的に何か。	
	2	自我とアイデンティティ（1） ・意味ある他者、準拠集団を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：自分にとって意味ある他者はどのように変化したか・変化していないか。	
	3	自我とアイデンティティ（2） ・地位・役割と社会関係、役割期待・役割演技・役割葛藤を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：どのような役割葛藤を経験したか。	
	4	集団と組織（1） ・社会集団・疑似集団・集合体、集団と組織、組織化を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：基礎集団と機能集団との相違は何か	
	5	集団と組織（2） ・官僚制の由来、官僚制組織の限界を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：官僚制の特徴とは具体的に何か。	
	6	家族（1） ・「家族を成立させる2前提」の揺らぎ、これまでの家族の定義を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：家族類型において核家族とは何か。	
	7	家族（2） ・家族機能の純化、“愛情”にもとづく結婚と家族の正当化を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べておく。 ・課題：「近代家族」とはどのような家族なのか。	
	8	地域社会（1） ・都市と村落、都市の結節機関説を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：町内会・自治会の具体的な活動は何か。	
	9	地域社会（2） ・都市化、市民がつくる都市を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べてしておく。 ・課題：都市化とは具体的にどのような変化が生じることか。	
	10	エスニシティ（1） ・境界人、内集団・外集団、エスノセントリズム、レイシズムを取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べておく。 ・課題：エスノセントリズムの具体例にはどのようなものがあるか。	
	11	エスニシティ（2） ・国民形成、民族、エスニック・グループ、エスニシティを取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を調べておく。 ・課題：エスニシティと思われる社会現象には具体的にどのようなものがあるか。	

	12	社会システムと社会的ジレンマ（１） ・社会的行為、相互行為、社会関係を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を下調べてしておく。 ・課題：個人を出発点とする社会形成の論理にそった概念にはどのようなものがあるか。
	13	社会システムと社会的ジレンマ（２） ・社会規範、階級構造と成層体系を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を下調べてしておく。 ・課題：社会を出発点とする個人適応の論理にそった概念にはどのようなものがあるか。
	14	ジェンダー（１） ・属性原理と業績原理、ジェンダー・バイアスを取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を下調べてしておく。 ・課題：ジェンダー・バイアスには具体的にどのようなものがあるか。
	15	ジェンダー（２） ・セクシュアリティ、平等化の原理を取り上げる。 ・AL①③を行う。 ・準備学習：教科書の該当部分を読み、わからない専門用語を下調べてしておく。 ・課題：セクシュアリティの個人差には具体的にどのようなものがあるか。
	16	定期試験
授業形態	講義 アクティブラーニング：①:15回, ②:0回, ③:14回, ④:0回, ⑤:0回, ⑥:0回	
達成目標	①社会学の入門程度の理論的知識を身につけること。（基礎） ②さまざまな社会関係、集団、全体社会の構造的な実態と社会的な課題について、基本的な知識を身につけること。（標準） ③さまざまな社会関係、集団、全体社会の構造的な実態と社会的な課題について、発展的な知識を身につけること。（応用） ④社会の仕組みや現代社会の動向に対して、主体的に眼を向ける態度を養うこと。（応用）	
評価方法・フィードバック	定期試験（60％）、レポート（40％）で総合評価する。課題は評価の対象外とし、考え方、正解などはiLearnで解説をする形でフィードバックを行う。	
評価基準	秀（①～④）：定期試験、レポートを総合して90点以上 優（①～③）：同じく80～89点 良（①～②）：同じく70～79点 可（①）：同じく60～69点 不可：同じく60点未満	
教科書・参考書	教科書：武山梅乗『各駅停車 社会学行』学文社 参考書：長谷川公一ほか『社会学』有斐閣。倉沢進・川本勝編著『社会学への招待』ミネルヴァ書房。本間康平他編『社会学概論』有斐閣 推薦図書：作田啓一・井上俊編『命題コレクション社会学』筑摩書房	
履修条件	なし	
履修上の注意	真剣に受講する学生の利益を優先する。迷惑をかける学生は退室させる。 授業中の撮影、ノートパソコンやスマホの使用を禁止する。	
準備学習と課題の内容	準備学習：①教科書該当部分の精読、②重要事項の下調べ（①②合計で1.5時間） 課題：毎回の授業で提示された課題に取り組むこと（1.5時間）	
ディプロマポリシーとの関連割合（必須）	知識・理解:20%, 思考・判断:25%, 関心・意欲:20%, 態度:30%, 技能・表現:5%	
DP1 知識・理解		
DP2 思考判断		
DP3 関心意欲		
DP4 態度		
DP5 技能・表現		